

平成20年度第2回 直江津地区中心市街地活性化協議会 議事要旨

日 時：平成20年9月8日(月) 11:00～12:00

場 所：上越商工会議所3階大会議室

出席者：別紙名簿参照(出席者29名、オブザーバー2名、服部タウンマネージャー、市担当職員5名、会議所担当者5名)

議事要旨

1. 会頭あいさつ

両地区申請について、新聞紙上でいろいろと書かれているが、断片的な情報で誤解をしている方も多いと思うが、今日の協議会で方向性を決め、中心市街地の活性化の推進に向け、両地区とも申請に向けて取り組んでいきたいので、協議会構成員が一体となって進めてもらいたい。

2. 協議会会長あいさつ

報道でだいたいことは知っていると思うが、市や協議会にも反省をするところがある。国も両方を認定する気持ちがあると思うし、そのつもりで協議会を進めてきたが、熟度の部分で甘さがあった。数値目標を達成できるように協議会で熟度を高め、両地区の基本計画の認定を早く頂けるようにしたい。

3. 関係機関及び協議会新メンバーの紹介

事務局から新メンバー(オブザーバー)の新潟県地域振興局熊倉部長を紹介。

4. 検討内容及び意見交換(:委員、 :上越市担当者、 タウンマネージャー)

上越市(直江津地区)中心市街地活性化基本計画(案)の申請状況及び進捗状況の報告について

上越市中心市街地活性化推進室：折橋室長が資料 1 - 1 ~ 3 に基づき、国との事前協議を報告。

両地区の同時申請を目指し、国との協議を進めてきた。直江津地区は効果のある事業について、地域、民間が主体となる事業を詰めることが望ましく、熟度を高めながら次回以降の申請を助言された。協議会に相談し、方向性を決めていきたい。

基本計画の基本的な構成は変わらないが、前回の協議会での意見を取り入れ、H20年度を現況数値にし、また歩行者数に自転車数を加え、基にしてH25の目標数値を設定した。

数値目標の裏付けとなるものが計画であるが、この計画では直江津は数値目標を達成できないという国の意見なのか。時間に制限があるのか。

直江津は難しい面があり、効果がある事業の発掘や研究事業の熟度を高めてもらいたいという助言があった。たとえ、時間差で申請するとしても、その時間を有効に使いながら熟度を高めてもらいたいということである。

国は2地区同時申請を理解はしているというので、目標数値の伸びを低くすることで同時申請をすることはできないのか。

活性化につながる数値であることを理解してもらいたい。

両地区にはそれぞれの特色があり、一緒になって取り組むことで活性化になる。2地区に分けて申請をする根拠は何か。

都市機能の集積で市の中心になっているという中心市街地の位置づけをして、2地

区それぞれの市街地を国に理解してもらった。国からは直江津の申請を引き続き目指すよう励ましをもらっている。

会長：それぞれの市街地が努力し、相乗効果をあげて、市全体を活性化しなければならない。

全国では2地区同時認定があった。直江津には事業がないというが、水族博物館が計画から除かれたことが響いたのではないか。

国は行政が本気で取り組む気があるのかを問う。民間事業との連携という面では、市は活性化の機運を高めるため、民間事業を誘発するような施策を5年間で積極的に取り組んでいくことが重要となる。その一方で民間事業者も検討を進めていく。認定を受ける意思をもつということは、市が責任をもって進めることと同様である。協議会は法律に基づいた委員として各々が事業に取り組み、計画策定をした市が責任をとるものである。

国は認定が取れるようアドバイスをする機関であり、認定ができるよう全国同様に努力をしている。認定を目指すかどうかは市の選択。一つでも確実な事業で活性化に取り組んでいくことでもいい。後からでも事業の積み増しはできる。ただし10年後のグランドデザインの中での位置付けを進める。

国も半年ぐらいで計画を詰めてもらいたい意向である。一つでも二つでもいいので、国の補助を受ける事業も必要であろう。

高田を先に申請すると、直江津の申請のハードルが高くなるのか。

タウンマネージャーの発言で十分。信じていくしかない。

副会長：直江津は検討だけではなく、熟度を高めて実施をしていく必要がある。高田より後の申請になっても、地域と相談をしながら一所懸命おこなっていく。我々の手で実行していく決意をもって頑張っていきたい。高田地区の人からも一緒に取り組んでいくよう意見をいただきたい。

会長：協議会は両地区一体であり、お互いが刺激をしあい、また協力をしながら取組、活性化につなげることが重要。

目標数値について、行政のガイドラインはあるのか。

直江津は空き店舗が増えているため目標にあげた。

直江津の申請に向けて、何をいつまでにしなければならないのか。

申請時期は4カ月に1回審査があると思うので、その都度見極める。街の皆さまと話を詰めていく必要がある。

会長：両地区の交流を活発にし、意見を出し合う場を行政が設定してもらいたい。進めていきたい。

大嶋副会長：高田地区、直江津地区

その他

上越商工会議所：渡部次長から、前回の協議会で提案したシンポジウムを12月くらいに開催し、市民に中心市街地活性化を理解してもらいたいと考えている。なお、実行委員会を組織し、協議をしていきたいと考えている。

満場一致で承認。

服部タウンマネージャーより総括。

両地区を認定してもらおうということを協議会で意思統一してもらいたい。10年後、

20年後を見据え、図書館、水族博物館、屋台会館の役割を基本計画に入れていく必要がある。本気になって皆さんが論議し、やる気をもって取り組んでもらいたい。

上越市澤海部長より、市としても真剣に取り組んでおり、市議会にも中心市街地活性化特別委員会が設置された。財政が厳しく、その中で中長期のグランドデザインを立てにくいところもあったが、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

以上をもって、平成20年度第2回協議会を終了した。